灰谷健次郎の『だれもしらない』を読む

３０年以上前に、私は灰谷健次郎さんが書いた『だれもしらない』という物語に感動しました。『ひとりぼっちの動物園』という本の巻頭に載っていた覚えがあります。やがて長谷川集平さんの挿絵で絵本として刊行されました。今、私の手元にあるのは、この絵本です。久しぶりに読み返しました。皆さんも読まれたことがあると思います。

ストリーは以下のようです。養護学校に通うまりこは２００㍍を４０分かけて通学している子どもです。まりこが、自宅からバスに乗るまでの２００㍍に出会う人たち・できごとを綴った作品です。まりこにはまりこの世界がある。まりこの思いや考えが書かれている物語です。

「あなたの知らないところにもいろいろな人生がある。
　あなたの人生がかけがえのないように、
　あなたの知らない人生もまたかけがえがない。
　人を愛するということは
　知らない人生を知るということである」

灰谷さんの伝えたかったメッセージは、「あとがき」に書かれたこれらの言葉にまとめることができます。

2016 年４月から「障害者差別解消法」が施行されます。障がいを理由とした差別が撤廃され、ユニバーサル（できるだけ多くの人が利用でき）でインクルーシブ（隔たりのないすべての人を含む）な社会づくりが進められます。これから学校でも、人権教育の中で「障がい者差別」を根絶するために、子どもたちと共に身近な問題を考え、解決していきたいと思います。

さて津島市人権教育委員会の『研究会だより』も今年で第 35 集を刊行することになりました。今年度も各学校の人権に関する珠玉の教育実践をまとめることができました。「教科」「道徳」「特別活動」「総合的な学習」など研究の切り口は違っても、学校教育活動全体で人権教育と取り組んだことが分かります。最近の傾向として、これらの活動の関連・結合を目指した研究が多いように思います。

また研究推進委員会の先生方により、研究会として「共生」をどのように考えるかが明らかとなりました。昨年度の人権教育のための「社会科カリキュラム」に続いて「国語（文学作品を中心とした）カリキュラム」の作成を行いました。また社会科カリキュラムに基づき、「江戸時代の身分制度・職業の多様化」の研究授業も行いました。来年度以降、「人権教育の視点（課題）」を明らかにし、「道徳」「総合的な学習」のカリキュラムづくりを進めることが課題として残りました。

2015 年には、私たちの大先輩伊藤卓夫先生が『愛知の部落史』（解放出版社）を出版してくださいました。当人権教育研究会では、教職員のための人権研修を充実させ、更なる研究と実践を積み重ねていきたいと考えます。

最後になりましたが、愛知県教育委員会・愛知県人権教育研究会・津島市・津島市教育委員会のご指導・ご鞭撻に感謝し、「巻頭の言葉」とさせていただきます。本当にありがとうございました。

２０１６年３月１０日

津島市小中学校人権教育研究会
会長　　浅井　厚視